

A—57 乾燥クロレラ脂溶性部の毒性物質について

実践女子大 ○染野 亮子
水野 伸子
中井 禎子

1. 研究目的：さきに乾燥原色クロレラ飼育ラットに耳介欠除の異常現象が認められたが、温メタノールにより脂溶性部を溶出した脱色クロレラ飼育群は正常であった。そこでこの異常現象の原因となる物質は脂溶性部に存すると考え、乾燥クロレラ脂溶性部をカロチノイド部、クロロフィル部、脂質（油脂その他）部に分け、いずれの区分に毒性の原因が存在するかを検索する目的で本研究に着手した。

2. 研究方法：凍結乾燥原色クロレラを温メタノール抽出を行ない、抽出した脂溶性部をアルミナカラム法及びケン化法によって、脂質部、カロチノイド部、クロロフィル部に分画した。これら3検体についてマウスを用い、生クロレラ飼育群、乾燥クロレラ飼育群、脱色クロレラ飼育群を対象として飼育実験を行なった。同時に検体について成分の検索をカラムクロマト法、ガスクロマト法により検索を行なった。

3. 研究成果：カロチノイド群には毒性が認められなかったが、脂質群では7匹全部が、クロロフィル群では7匹中5匹が死亡し毒性物質の存在することが確認された。